

佐波川で屋根より低い「こいながし」

今川 昇

汗知らず育つ若さにある誤算

竹本 タエ子

目の前にあった倅せ今気付く

田中 たづ子

スーパーの対面レジへ足が向く

権代 典子

隣人と会話がはずむゴミ出し日

権代 芳範

さばがわでやねよりひくい「こいながし」

いまがわ のぼる

あせしらずそだつわかさにあるごさん

たけもと たえこ

めのまえにあったしあわせいまきづく

たなか たづこ

すーぱーのたいめんれじへあしがむく

ごんだい のりこ

りんじんとかいわがはずむごみだしび

ごんだい よしのり

桜餅ばあちゃん宛ての鏡文字

林 美津江

桜鯛身ぶり手ぶりの告ぐ釣果

村瀧 富子

チェンソーの唸り軽やか柏餅

金内 憲一

がむしやらに生きた団塊昭和の日

賤間 由美子

生き生きと介護せし友夏来る

林 保江

さくらもちばあちゃんあてのかがみもじ

はやし みつえ

さくらだいまぶりてぶりのつぐちようか

むらたき とみこ

ちえんソーのうなりかるやかかしわもち

かねうち けんいち

がむしやらにいきただんかいしょうわのひ

ざいま ゆみこ

いきいきとかいごせしともなつくる

はやし やすえ

短歌

水底の石のかたち
に水温む
流れに逆らふ
稚魚の影あり

末永 敦子

ゆっくりと縮んだ
身体がのびてゆく
五月の風は
そのままだが
いい

山口 正子

杖いらず薬も飲まず
生きてると
何度も握る
白寿の恩師

弘重 和恵

夕焼けのあかねの空に
癒されて
思わずハミング
グタ焼け小焼け

椎木 道子

夏夜空雲にまぎれて
星たちは
力いっぱい
ひかり輝く

賤間 陽

みなぞこのいしのかたち
にみずぬるむ
ながれにさからふ
ちぎよのかげあり

すえなが あつこ

ゆっくりとちんだから
だのびてゆく
ごがつかぜは
そのままだが
いい

やまぐち まさこ

つえいらずくすりも
のまづいきてると
なんどもてに
ぎるはくじゅの
おんし

ひろしげ かずえ

ゆうやけのあかねの
そらにいやされて
おもわずは
みんぐゆうやけ
こやけ

しいぎ みちこ

なつよぞらくもに
まぎれてほした
ちは
ちからいっぱい
ひかりかがやく

ざいま ひなた

自由律俳句

花びらは風の形に舞う

田中 里美

雑草に挨拶して一人の道をゆく

岡村 裕司

雀二羽に微笑む

林 陽子

甲羅干す亀連休の喧噪を見てる

賤間 星

春をたべている 竹の子 わらび

コシアブラ

西岡 悦子

はなびらはかぜのかたちになう

たなか さとみ

ざっそうにあいさつしてひとりのみちをゆく

おかむら ひろし

すずめにわにほほえむ

はやし ようこ

こうらほすかめれんきゅうのけんそうをみてる

ざいま せい

はるをたべている たけのこ わらび こしあぶら

にしおか えつこ

